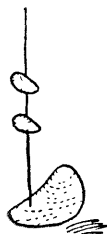


創造性をいかした 音楽指導



相馬 誠子

◆ 幼児に創造など

幼児に創造などという言い方はできない、という人もいる。芸術家が何かを創作するように考えれば確かにそうとも言えるが、しかし、幼児の場合は、もともととつとその基となるところの芽生え程度であって、将来は創作につながるかもしれない。

たとえつながらなくても、創造的性格をもった人間に成長するであろうという、ごく素朴な段階で、創造という見方が許されるならば、私はこの意味で、幼児なりの可能性についての創造を、肯定したい。

◆ 性格づくりの一つとしての創造性を

性格づくりの一つとして、創造性を全面的に培っていかねければ、そのためには創造活動をあらゆる面で経験させていかなければならない。

幼児なりに、自分で考えたり、工夫したり、何かを生み出すとする意欲態度を尊ぶのである。そうしたときに、能力のある子どもはすばらしい創造力を表すだろうし、それも、幼児らしい断片的な、衝動的な表現でしかないであろう。

それを、でたらめと見る人と、すばらしい創造と見る人とは、だいぶ開きがあるようだ。少なくとも、幼児を育て、それらを身近かに発見している人には、幼児の創造力に感じ、教えられることが多いと思うが。もちろん、発達能力の上の差もあるし、特

幼児の創造性の芽生えは、喜々として遊んでいる時、また、何かを表現しようとしている時に、全く素朴な形で、しばしば表れ、それは誰もが感ずることであろう。

幼児たちを、将来、創造性のある人間にしたいと念じながら、こうした芽を大切に育ててきて、いろいろと考えさせられることも多い。

に芸術性につながるものについては、環境、経験などによる個人差も著しいので、誰しも創造力をもっているとは言えないが、たとえ、能力として表われなくても、考えて表わそうとする創造的な性格が培われていくことは尊く、また、長い眼で見て、何時そのような能力を出し始めるかもしれないという希望も捨てることはできないので、何とかして幼いうちから、創造的に育てたいとひたすら思うのである。

さてこの辺で、与えられた課題、創造性をいかした音楽指導について考えてみることにする。あまりむずかしい問題で、私には確信的なことでもないのであるが。

まず、音楽指導を考えた時に、二つの指導面を頭にうかべる。

(一) 音楽の基礎的な面の指導

よい音楽を聞かせたり、いろいろな歌をうたわせたり、楽器あそびをさせていく中で、音楽的な生活を喜ぶように仕向け音楽的な感覚を育てる面。

(二) 音楽の芽生えを子どもからひきだす、創造的な面の指導

即興的に楽器をひいたり、ことばやふしを口ずさんだりすることから、創造的表現を育てる面。

極端に言えば、(一)は与える面、(二)はひき出す面と言えようが、(一)の場合でも過程の指導においては、できるだけ幼児の創意をおこさせ、それをいかす方向へと努力するし、例えば楽器指導の場合も

「どういう打ち方がいいかしら」とつちがきれいかな」と呼びかけることにより、幼児が考えたり工夫したりするようにもっていく。しかし到達するところは、音楽的なねらいへとということであると思う。(二)は全くの創造活動への指導であろう。

次に、歌、楽器の指導について考えてみる。

歌う指導については

☑音楽の基礎的な面から

いろいろな歌をおぼえさせ、歌声や歌詩、リズム、音程なども、少しずつ正しく歌えるようにと指導していくが、この場合も教師が一方的に与えていくのではなく、子どもが自分で気づいて、よりよく歌おうとするように仕向けていくことが大切であると思う。

☑音楽の生活化の面から

ただ、次々と歌をおぼえて歌うだけで終るならば、その歌は本当に子どもの中にとけこんでいない。遊びながら、戸外へ出かけながら、その場その場で心から歌が出てくるようにしたいものである。

☑創造的活動としての歌

遊びの中で、幼児は、何かを見たいと思った時に、感じたままをみじかいふしやことばで即興的に口ずさむことがある。これを、でたらしめ歌としないで、大切に育てていきたいと思

うのであるが、そのむずかしきはひとしおである。

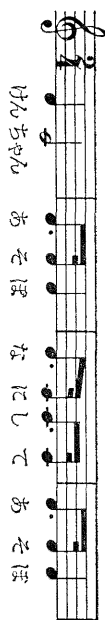
○生活の中の感動から生まれる口ずさみ

幼児は、一人言をいったり、何かに呼びかけたり、要求したりする時に、知っているふしにことばをつけたり、自分でふしをつけて言ったりして、歌うように話していることがある。これは、生活の中で感動したことが、ことばや叫びになって表われたもので、動きの表現と同じように断片的で、衝動的である。しかしこれでも創造的な表現としてみとめ、その指導を考える時に次のようなとり上げ方が考えられる。

○即興的な口ずさみのとり上げ方

① 「早く早く食べたいな」「きれいなお花、今日は」とか、いろいろと出てくる口ずさみを「おもしろい歌ね」と、みとめたり、教師もそれにつづけて「おべんどのおかず何かしら」とか「赤いお顔で、今日は」と歌ってかえしたりすることから、その楽しさを味うようになるので、こういうとりあげ方は是非してやりたいと思う。

②



子どもの口ずさみを譜にとって弾いてやり、子どもと「しよ

にくりかえしうたうことができれば、その子はどんなにか満足感を味わうことだろう。また次への成長へのきっかけともなっていくと思う。

③ ふしがなくてことばだけを多少リズム的という場合もあるが、こんな時にも、それをうけて、答えてやることもいいだろう。

④ 時には教師が質問の形で

「○○ちゃんの好きなもの何でしょね」と歌うと、それに対して「りんご」とリズムカルに答える子どもも出てくるようである。

⑤ また、幼児の生み出すふしは、二節か四節位の長さで、曲にならないことが多いのが普通であるが、そんな時にも終りの部分を皆で考えてみたり、教師が作ったりしても「皆で作った歌」として楽しくうたうことができると思う。

実例

子どもが秋の歌をうたった。

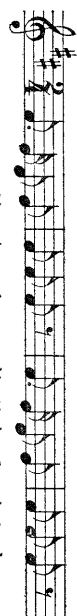
秋はいいな涼しくて お米も実るよ

果物も、山からころころやって来る

果物の絵本を見せ「何が好き？」などと話し合っているうちにバナナの好きな子どもが多くなった。

「バナナの歌が歌いたいけど、困ったな」

「バナナーバナナー」といっているとK男が



パチナは おいし じこ餅で おいし

と歌った。すぐ私は弾いて歌ってみた。「おいしいそんな歌ね」
嬉しげなK男の顔。

「その先はどうしようかな」というと、男が



と歌ったそのふしがちゃんと終止形でおわっていることによく
つくりした。この二人の合作で一つのフレーズができてい
る。そこにいた子どもたちみんなできり返し歌った。創造の
喜びは皆の心に感じられ嬉しいうときだった。
創造から、歌う楽しさが倍加してくるような気さえしたので
ある

たまたまこの時は歌になったのであるが、子どもの多くは、歌
にならない歌の方が多いし、それでも口ずさめる子どもはそれだ
け生活が楽しく豊かになると思うのである。

指導上どんな点に留意したらいいだろうか

①生活の中での感動からおこる口ずさみであるから、不自然な形

で「歌をつくりましょう」といっても何も出てこない。それよ
りも、まず教師自身が花をみて思わず口ずさんで楽しんでいる
ことが、子どもに大きな影響を与えているようだ。

②断片的な口ずさみを、そのまま気持よくうけとめることがで
き、その子どもが心から満足し楽しめれば、創造の意義がある
と思う。何でもまとまった歌にするということはどうだろう
か。一般教育においては少しいきすぎとも考えられるが。

③能力のある子どもが中心になるのでなく、皆でいろいろな口ず
さむ楽しさを味わうようにもっていききたい。

④教師の音楽性、創造性が、子どもに影響することが大きい
ので、私たちはこの面の勉強もおろそかにできないと思う
時に子どもたちの口ずさみを合わせて一つの歌にしてやること
ができたなら、子どもたちもどんなにか楽しく、また、創意が生
活の中に入ったとしていられることだろう。

そのためには、四小節か八小節、くらしいのフレーズ感もてる
ことや、簡単なメロディーを聞いて譜にとれるという勉強が必
要になってくるであろう。

△楽器指導については▽

音楽をきいて自由に楽器を打つ中から、曲の感じに合った打ち
方のいくつかをとりあげ、楽器の組み合わせを考えながら、分担
奏や合奏に指導していくことが多いと思うが、この場合、子ども

たちの創意工夫を重視しながらも、音楽という美しい感覚を育てる上からは、教師側の考えも入れて音楽的な編曲へとまとめていくことと思う。

📌 もっと創造的にできないものか？

動きでも即興的な口ずさみでも、幼児の生活の中から断片的に思いのまま表現させているのに、なぜ楽器だけは、幼児の姿からはなれ、おとなの頭で編曲したもののへと指導していくのか。もっと幼児らしい姿で動物やあそび、のりもののリズムや感じを楽器で表現してあそぶようにはできないものか。「象さんは？」（たしいコ）「小鳥は？」（ハントカスター）というようにして。

身近かな音や動くものから、幼児が感じたままを楽器に表わすということはどうなんだろう。そういうあそびも入れて良いのじゃないか？ という説を聞いて考えさせられた。確かに幼児側から考えればうなずけるし、そういうところもおもしろいと思うが。

音楽的な調和（ハーモニー）の美しさを感じとらせるには現在多々行なわれている方法によるほかにような気がする。しかし、創造的にと強く考えれば、やはり幼児の創造は作品にはなっていないわけであるから、音楽からはやはなれた、あそびと考えられる。しかし「創造性をいかして」ということからいえば意義があると思うので、実際に研究する余地もあろう。

楽器の創意工夫

コップに水を入れて叩いたり、おわんのようなものや、竹筒を使った楽器あそびも一部に工夫されているようだが、子どもたちの創意からとりあげることもあってよいと思うが、これらを使って音楽的な感覚を育てるということになる。「音色」に充分注意をはらって工夫しなければならぬと思う。

一と口に創意をいかした音楽指導というけれども、音楽性と創造性、与える面と、ひき出す面の指導、子どもの創意のとりあげ方、音楽的方向への育て方などの問題は多い。

子どもの能力差も大きいし、教師の影響もまた大きいとあってはおおさらだ。要するに天才教育ではないので豆作曲家を作るわけでも豆演奏家を育てるわけでもない。教育としての音楽指導である以上、美的な情操や創造性を育てるためであり、専門的な技能教育でなく、性格づくりのひとつとして考えていくべきであることをしっかりふまえて、この面の教育に行きすぎのないよう心がけたいと思う。反面、教師自身の音楽的教養をつむことが、無言のうちにも子どもたちにプラスになっていくことを信じて、努力したいと思ってい

* * *

（新宿区立四谷幼稚園）